



# 2012年3月期 決算説明会

株式会社アイネット

2012年5月16日

東証1部  
証券コード 9600

次第	プレゼンター	所要時間
はじめに	取締役副社長 市川 公雄	約10分
2012年3月期 業績概要		
経済・業界環境	代表取締役社長 梶本 繁昌	約30分
通期業績予想		
質疑応答		



## 1. はじめに

2. 2012年3月期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

# inet 会社概要(2012年4月1日現在)

- 商号 株式会社アイネット
- 設立 1971年4月22日
- 本社 横浜市西区みなとみらい3-3-1
- 資本金 3,203百万円

- 代表者

代表取締役会長 池田 典義

代表取締役社長 梶本 繁昌

- グループ会社

(子会社) 株式会社ISTソフトウェア

株式会社アイネット・データサービス

(関連会社) 株式会社ラネクシー

- 社員数1,416名(連結)

937名(単独)

事業所／支店／データセンター

東京事業所 札幌支店、仙台支店、中部支店

大阪支店、中四国支店、福岡支店

第1データセンター、第2データセンター



1st Data Center



2nd Data Center



1. はじめに

2. 2012年3月期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

# inet 2012年3月期業績概要(連結)

(単位:百万円・%)

	2011年3月期		2012年3月期		前年同期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	20,303	100.0	20,374	100.0	+71
売上原価	15,744	77.5	15,486	76.0	△257
売上総利益	4,558	22.5	4,887	24.0	+329
販管費	3,706	18.3	3,673	18.0	△33
営業利益	852	4.2	1,214	6.0	+362
経常利益	812	4.0	1,113	5.5	+300
税引前利益	657	3.2	1,173	5.8	+516
当期純利益	233	1.2	592	2.9	+358
1株当たり利益(円)	16.7	—	45.5	—	+28.8

# inet サービス区分別販売実績・営業利益(連結)

(単位:百万円)

	2011年3月期		2012年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
					金額	金額
情報処理サービス	7,252	429	7,802	625	① +549	+195
(営業利益率)	—	5.9%		8.0%	—	+2.1%
システム開発サービス	12,350	390	11,761	547	② Δ589	+156
(営業利益率)	—	3.2%		4.7%	—	+1.5%
システム機器販売	700	32	810	42	+110	+9
(営業利益率)	—	4.6%		5.2%	—	+0.6%
合計	20,303	852	20,374	1,214	+71	+362
(営業利益率)	—	4.2%	—	6.0%	—	+1.8%

(主な要因)

①データセンターサービスおよびクラウドサービスが好調に推移、増収増益

②企業のIT投資抑制影響で売上高が減少したものの、マネジメント強化により増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

(単位:百万円・%)

	2011年3月期末		2012年3月期末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	6,592	33.2	7,230	33.8	① +637
固定資産	13,270	66.8	14,171	66.2	② +901
繰延資産	7	0.0	3	0.0	△4
資産合計	19,870	100.0	21,405	100.0	+1,534
流動負債	5,200	26.2	7,068	33.0	+1,867
固定負債	6,348	31.9	6,208	29.0	△139
負債合計	11,548	58.1	13,277	62.0	③ +1,728
純資産	8,322	41.9	8,127	38.0	△194
負債・純資産合計	19,870	100.0	21,405	100.0	+1,534

(主な要因)

- ①現預金 259百万円及び売掛債権 404百万円の増加
- ②データセンター拡充等により有形固定資産962百万円増加
- ③有利子負債 848百万円増加、未払法人税453百万円の増加等、

# inet キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2011年3月期	2012年3月期	前年同期比
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,709	① 2,192	+483
投資活動によるキャッシュ・フロー	△422	② △1,941	△1,519
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,074	③ 8	+2,083
現金及び現金同等物の増減額	△788	259	+1,047
現金及び現金同等物の期首残高	3,085	2,297	△788
現金及び現金同等物の期末残高	2,297	2,556	+259

(主な要因)

- ①[増加要因]利益および償却による内部留保 +2,248百万円等
- ②[減少要因]固定資産(データセンター拡充等)の取得 △1,971百万円等
- ③[増加要因]長期・短期借入金の増加(Net) +848百万円等
- [減少要因]子会社による自己株式取得、配当金の支払 △693百万円等



1. はじめに

2. 2012年3月期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

■ 足下の景気は一部で持ち直しへ向かう

● 企業

- ・震災、タイの洪水によるマイナス影響が薄れ、景気は持ち直しへ
- ・輸出関連企業に慎重さが残るものの、内需関連企業が改善中
- ・被災した設備の修復など、設備投資は緩やかな増加基調

● 個人消費

- ・雇用情勢・所得は引き続き厳しいが、自動車に対する需要刺激策や住宅投資は持ち直し、個人消費は改善傾向へ

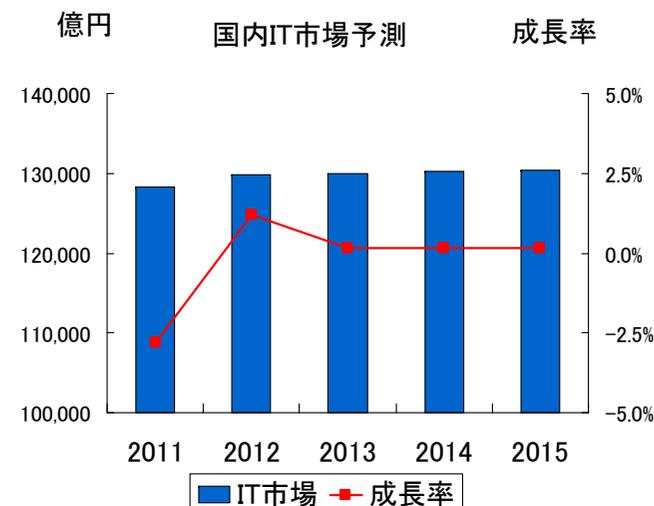
■ 懸念材料

- 原油高 ⇒ 中東情勢により原油価格急騰の恐れ・・・企業収益圧迫
- EU ⇒ フランス大統領交替によるユーロ支援枠組みの動向
- 電力需給 ⇒ 今夏、東日本3.7%余剰・西日本3.6%不足と予測  
⇒ 一部地域での製造業は生産調整／海外移転に発展する恐れ

■国内IT市場規模はプラス成長の見込み

- 2012年 国内IT市場規模は12兆9,777億円1.2%増の予測  
(12/2/28 IDC-Japan)

- ・リーマンショックや震災影響で  
延期されていたハードウェア投資や  
システムの更新などが再開される



■ITトレンド

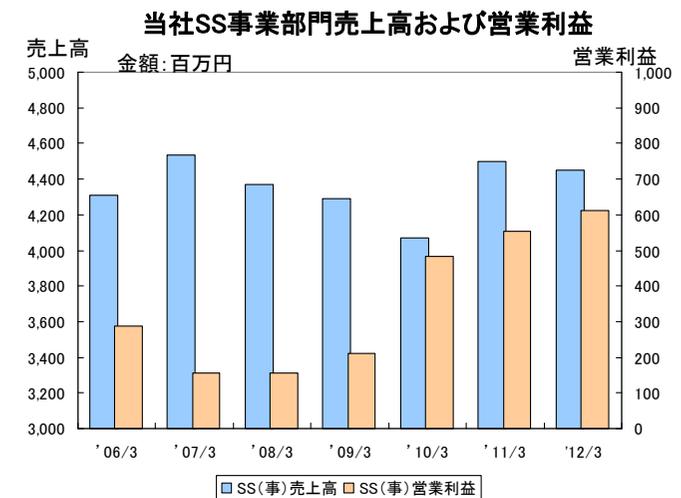
- 企業の分野別IT支出トップは「ビジネス継続・災害対策」
  - ・災害対策、BCPの観点でデータセンターの利用拡大
- コスト意識の徹底
  - ・IT投資効率の向上でクラウドサービスの利用拡大
  - ・ソフトウェア市場におけるクラウド向けのシェアは  
2011年8.2%⇒2016年20.9%に拡大(12/4/16 IDC-Japan)

## ■石油業界の動向

- SSの減少傾向 ※SS=サービスステーション=ガソリンスタンドのこと
- 発電向け重油需要は増加
- 元売各社はローコストオペレーションを徹底  
⇒SSは大型化や元売(商社含む)直営化へ

## ■当社グループの状況

- 昨年度、当社処理SSは増加  
シェアが更に拡大(業界トップシェア)
  - セルフ店増加でクレジットカード決済処理増加
  - 元売や商社直営店へのアプローチを強化継続  
さらにLPG/灯油宅配へ展開中
  - 決済システムを活用し、クレジットカードの  
非対面決済分野にビジネス展開 (今後は別業種展開に注力)
- ★上記の結果、SS事業部門は過去最高益を3年連続更新



■市場収縮に改善の兆し

- 消費者ローンの貸付残高が3ヶ月連続増加し改善の兆し(2012/4/17 日経新聞)
- 総量規制外の新規参入銀行(ネット・流通系)は貸出拡大
- メガバンクも個人融資に注力

■当社グループの状況

- 現状の大手顧客を維持しつつ新規参入銀行へアプローチ
- ノンバンクで培ったノウハウを核として他の金融フィールドへ展開
  - ・海外パートナーと中国市場への展開を模索中
- ABC(活動基準原価計算)システムを5行から受注
- クラウドローンサービス提供開始
  - ・オリックス銀行様へローンシステム全般をクラウドで提供
  - ・ローンカードや各種印刷物などのBPO業務も提供(2012年3月開始)

★消費者金融会社から銀行へサービスを拡大

■ 製造・制御

- 製造業は復興需要の本格化や円相場により改善の兆し
- 自動車は新興国需要や国内の需要刺激策により景況感改善

■ 宇宙開発

- 政府は民間企業と連携して東南アジア諸国などのロケット発射を代行など宇宙関連産業を強化する方針
- 2012年度の水循環変動観測衛星「しずく」、「こうのとり」3号機などロケット発射を予定

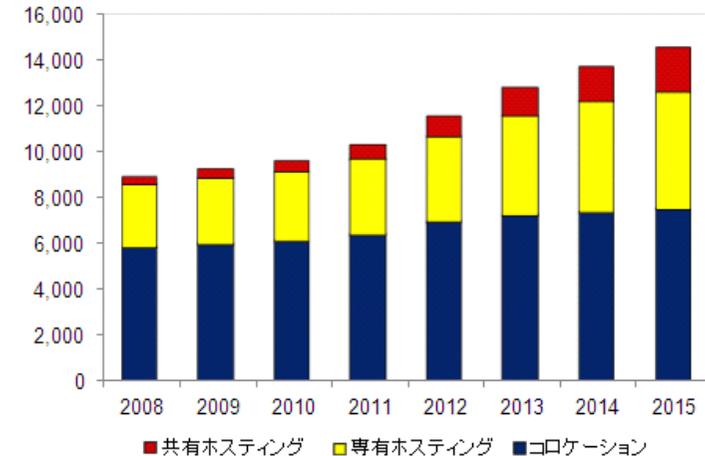
■ 当社グループの状況

- 製造・制御 … 医療機器、防衛関連や自動車関連での引合増加
- 宇宙開発 … 「しずく」打上げや「はやぶさ2」など着実に受注を獲得
- M2Mなど … 制御系ノウハウとクラウドを活用して新たなソリューションを検討中

## ■国内データセンターサービスはさらに拡大

- 企業の災害対策強化のため利用拡大
  - ・2012年の市場規模は1兆1,488億円へ
  - ・前年比成長率は12.4%
- コロケーションからホスティングへ移行企業が増加中(低価格なクラウド普及)

国内データセンターアウトソーシング市場  
セグメント別投資額予測、2008年～2015年



出典：IDC Japanプレスリリース  
「国内データセンターアウトソーシング市場予測を発表  
(2011年10月7日)」より 転載禁止

## ■当社グループの状況

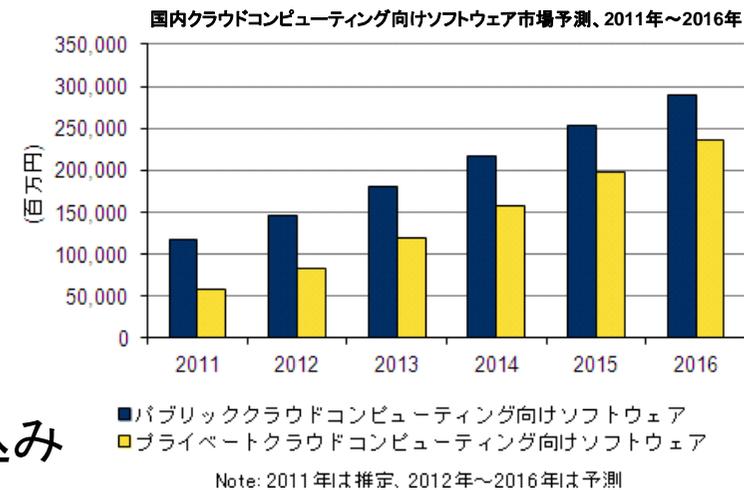
- 市場拡大を背景に案件を受注拡大中
- 受注後はシステム開発やプロフェッショナルサービスへ展開
- 4棟目の新データセンターの建設計画を前倒し
- 電力会社が異なる地域のデータセンター事業者とアライアンスを検討中

★システム開発からBPO業務などワンストップ提供で“差別化”

## ■国内クラウド市場は急拡大(当社はプライベートクラウドにフォーカス)

- プライベートクラウド向けソフトウェアの市場規模は2016年に2,370億円に成長  
2011年～2016年のCAGR\*32.5%
- 2016年には国内ソフトウェア市場の20.9%まで拡大すると予測  
(12/4/16 IDC-Japan)
- プライベートとパブリックを効果的に使い分ける「ハイブリッドクラウド」が急拡大見込み

\* CAGR: Compound Annual Growth Rate/年間平均成長率



出典: IDC Japanプレスリリース  
「国内クラウドコンピューティング向けソフトウェア市場予測を  
発表(2012年4月16日)」より 転載禁止

## ■当社グループの状況

- VAiOSをベースにしたEASYCloud®が大きく成長
- 収益率の高いクラウドサービスのラインナップを一層強化
- 営業力強化(自社営業マン増強+大手リセラーとのアライアンス)
- ハイブリッドクラウドへの対応検討

ご参考資料につき  
省略させていただきます

2012春クラウドEXPO  
5.9~5.11  
盛況で多くの営業リード獲得

## クラウドサービス商品の強化

サービス名称	サービス概要
PRIVATE Cloud VAiOS Premium Private Cloud Service	国内最高クラスのデータセンターで顧客専用のPrivate Cloudを提供
EASY Cloud VAiOS Virtual Private Cloud Service	リソースプール型PaaS リソースプール範囲内で仮想サーバを自由に増減可能
Cloudstor VAiOS Private Cloud HDFS Storage Service	Hadoopストレージサービス、スマートフォンやタブレット端末に対応
VIDAAS	デスクトップ仮想化(DaaS)サービス
VIDAAS Lite	中堅規模顧客、大企業部門向けDaaSサービス
VIDAAS 324	仮想デスクトップを1ユーザから提供
DataComfort VAiOS Private Cloud Data Backup Service	クラウド型データバックアップサービス
Mapdemic Mobile Application Development & Migration Center	クラウド環境対応アプリケーション開発サービス

「Cloudstor®」と富士ゼロックス  
の「ネットプリント」を連携

クラウドストレージ上のファイルを全国  
のセブン-イレブンで印刷可能に

ご参考資料につき掲載を  
控えさせていただきます

日経産業新聞 2012/3/6

ご参考資料につき掲載を  
控えさせていただきます

日本経済新聞 2012/3/6

	2012年3月期 (前期)		2013年3月期 (今期)	
	業界の景況感	当社の景況感	業界の景況感	当社の景況感
石油業 販売店含む				
金融業 その他金融業				
製造業 制御・宇宙				
データセンター サービス				
クラウド サービス				

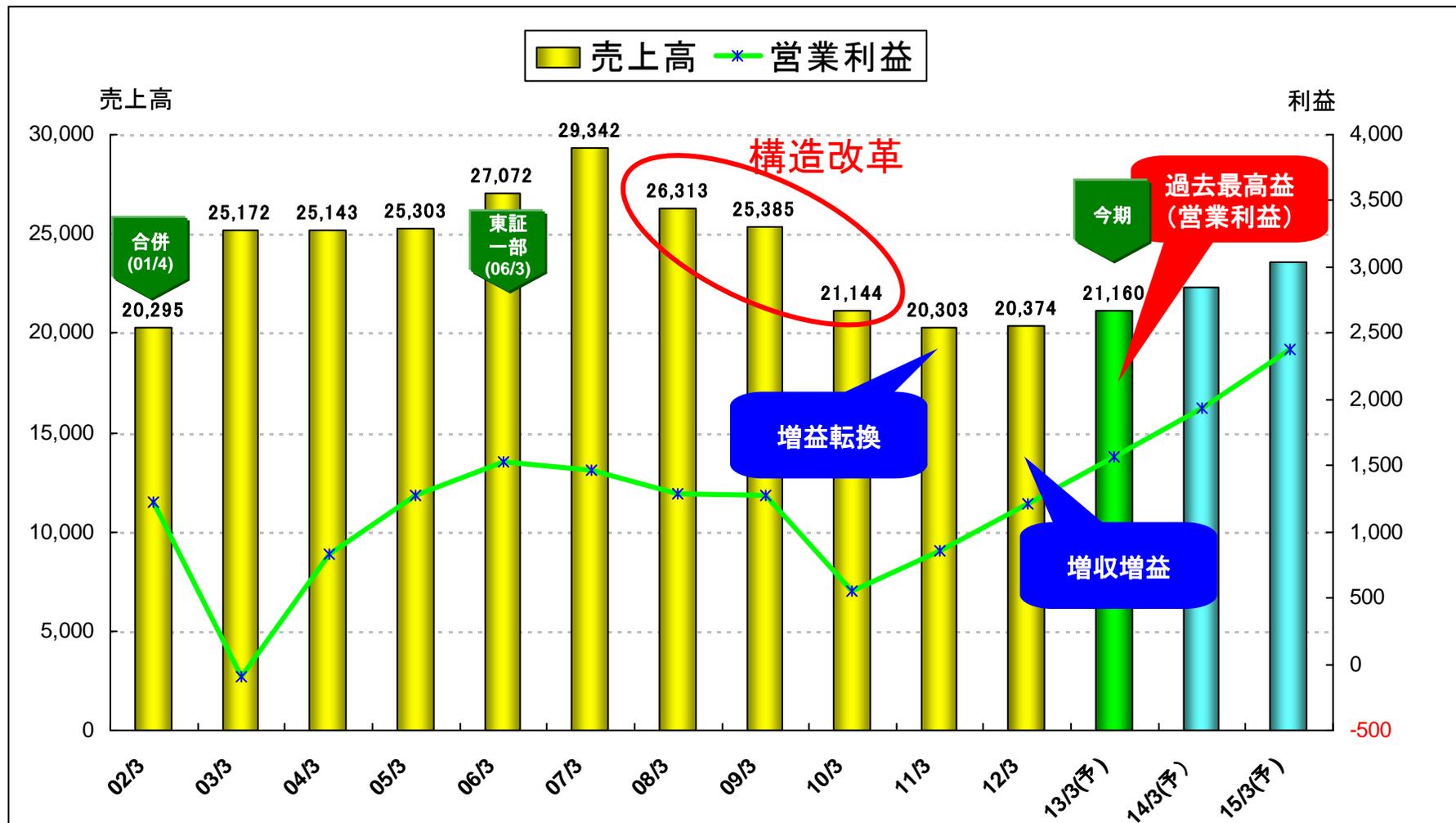


1. はじめに

2. 2012年3月期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想



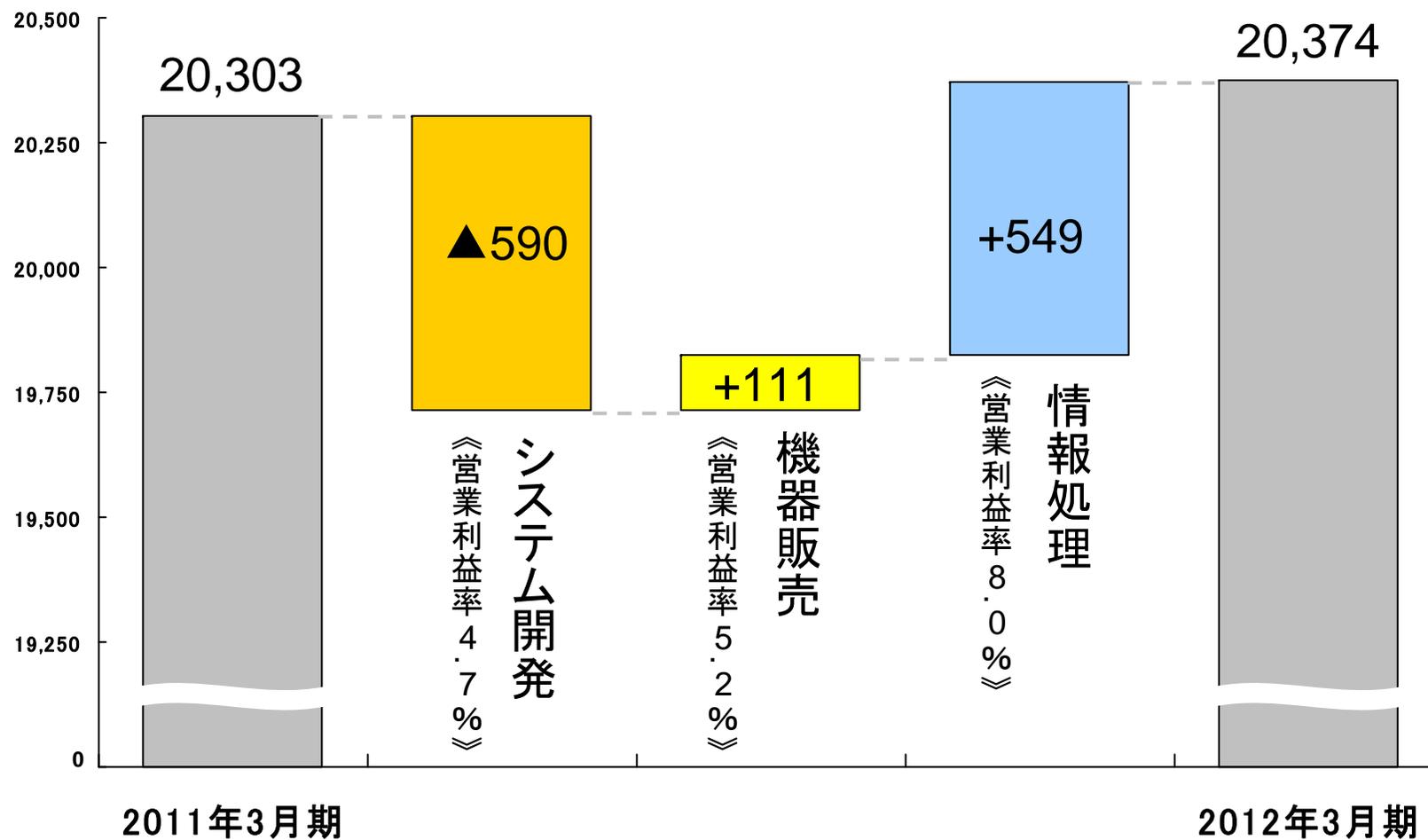
企業規模拡大  
(M & A)

選択と集中  
(構造改革)

サービス化加速  
(クラウドBiz注力)

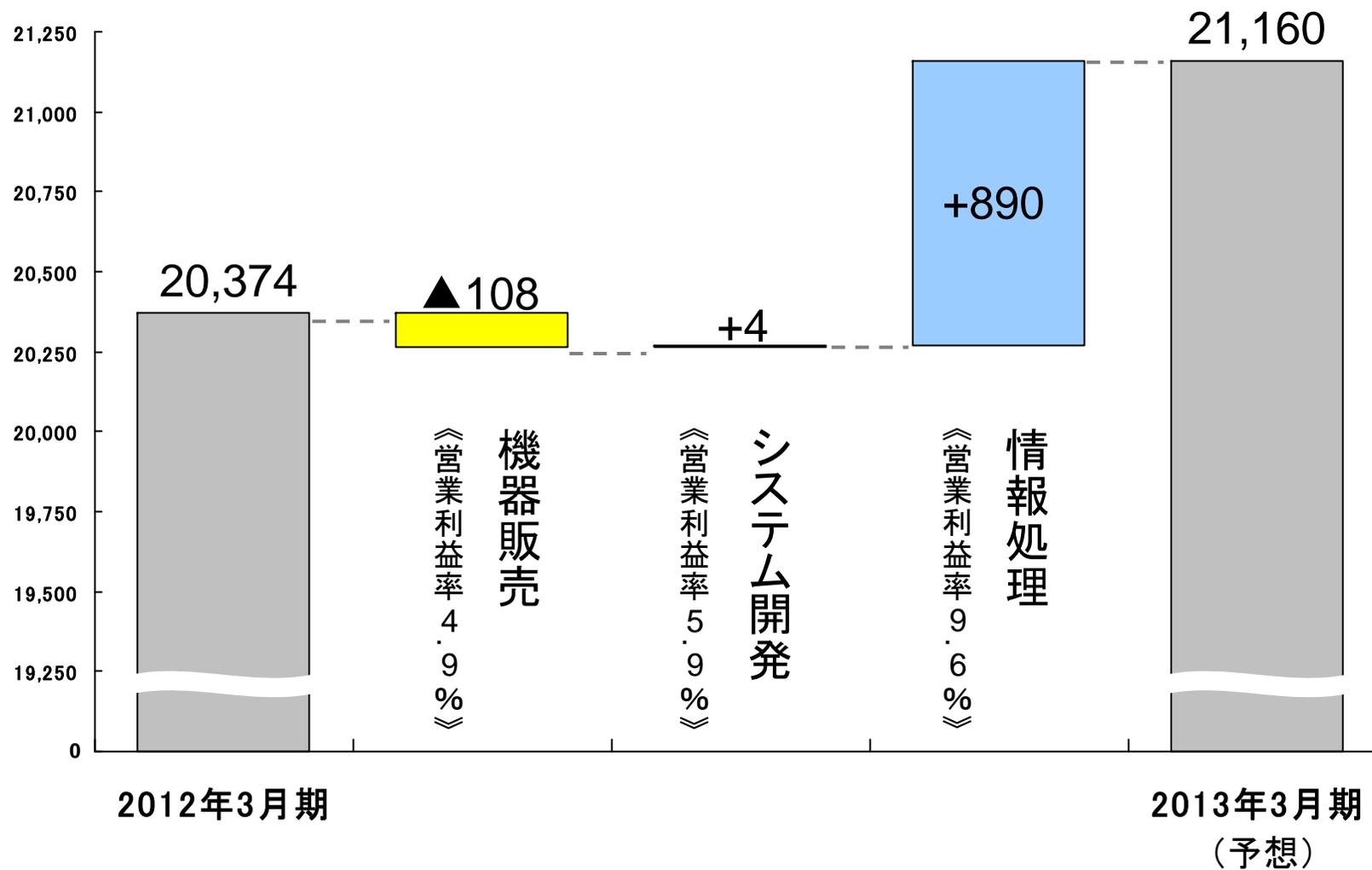
# inet 2012年3月期の売上高内訳と利益増加要因

(単位:百万円)



# inet 2013年3月期の売上高内訳と利益増加要因

(単位:百万円)



（単位：百万円・％）

	2012年3月期		2013年3月期		前期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	20,374	100.0	21,160	100.0	+786
売上原価	15,486	76.0	15,840	74.9	+353
売上総利益	4,887	24.0	5,320	25.1	+432
販管費	3,673	18.0	3,760	17.8	+87
営業利益	1,214	6.0	<b>1,560</b>	7.4	+345
経常利益	1,113	5.5	1,410	6.7	+297
当期純利益	592	2.9	800	3.8	+208
1株当たり利益(円)	45.5	—	61.4	—	+15.9

営業利益・・・2006年3月期実績の1,524百万円を超え、過去最高益を更新予定

# inet サービス区分別 売上・営業利益予想(連結)

(単位:百万円)

	2012年3月期		2013年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報処理サービス	7,802	625	8,692	834	① +890	+209
(営業利益率)		8.0%	—	9.6%		
システム開発サービス	11,761	547	11,765	691	② +4	+144
(営業利益率)		4.7%	—	5.9%		
システム機器販売	810	42	703	35	△108	△7
(営業利益率)		5.2%	—	4.9%		
合計	20,374	1,214	21,160	<b>1,560</b>	+786	+345
(営業利益率)	—	6.0%	—	7.4%	—	+1.4%

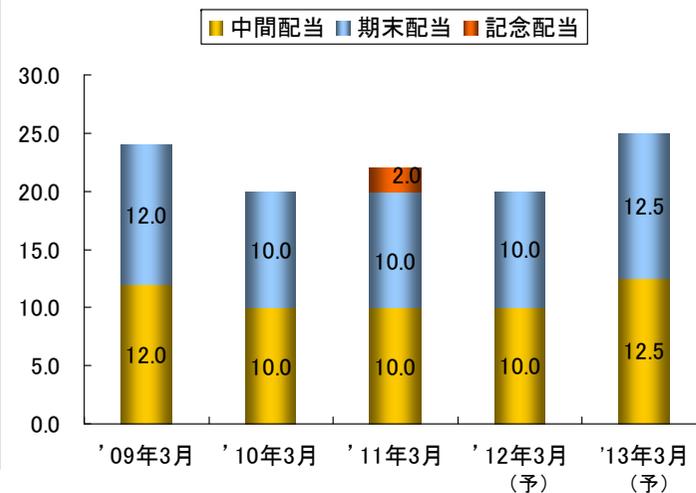
①データセンターサービス、クラウドサービスが伸長

②売上は横ばい、販管費の減少(のれん償却完了)など

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

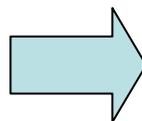
## 《配当方針》

将来の資金需要に備え  
内部留保しつつ  
安定配当を継続実施



## 1株当たり年間配当金の計画

2012年3月期(予定)  
20.00円  
中間(10.00円)  
期末(10.00円)



5円増配予定  
過去最高配当

2013年3月期(予定)  
**25.00円**  
中間(12.50円)  
期末(12.50円)

本日はご多用中にもかかわらず  
説明会にお越しいただき誠に  
ありがとうございました。



当資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合がありますことを、予めご承知頂きますようお願い申し上げます。

当資料に掲載されているサービスおよび商品などは、株式会社アイネットあるいは各社の登録商標または商標です。

お問い合わせは、下記連絡先までお願い致します。

企画本部 経営企画・IR部 高宮、杉岡

TEL 045-682-0808

E-Mail [infoir@inet.co.jp](mailto:infoir@inet.co.jp)

URL <http://www.inet.co.jp>